

令和元年 1 月～11 月の 110 番通報の概要

はじめに

1 月 10 日は「110 番の日」だそうです。日刊警察新聞社発行の「日刊警察」1 月 16 日号に掲載された警察庁発表記事の概要を紹介します。通報の 7 割がスマートフォン等によるもので、約 2 割は緊急性のないものだったそうです。事件・事故等の緊急の対応を必要とする場合は「110 番」、それ以外の場合は、警察相談専用電話の「#9110 番」等の各種相談電話を利用されたいとのこと。

通報が最も多かったのは警視庁の 1,324,788 件、最も少なかったのは秋田県警の 27,684 件でした。また、レスポンスタイムの全国平均は 8 分 6 秒(前年同期は 7 分 25 秒)でした。

■ 110 番通報受理件数

令和元年 1 月～11 月の受理件数は 8,299,775 件で、前年同期比で△59,937 件(△0.7%)であった。受理件数のうち、携帯電話(携帯電話、スマートフォン等)からは 6,138,155 件で全体の 74.0%を占め、過去最高を記録した。

■ 事案別通報状況

事故等の「緊急の対応を必要とする通報」は 6,775,233 件で全体の 81.6%を占め、前年同期比で+19,242 件(+0.3%)であった。内訳は、「交通関係」が 2,758,927 件(構成率 33.2%)、「各種情報」が 1,312,419 件(同 15.8%)、「保護・救護」が 493,146 件(同 5.9%)、「けんか口論」が 408,702 件(同 4.9%)、「刑法犯関係」が 341,618 件(同 4.1%)、「災害関係」が 79,619 件(同 1.0%)、「その他法令違反(特別法犯)」が 47,415 件(同 0.6%)、「その他」が 430,164 件(同 5.2%)、「続報」が 903,223 件(同 10.9%)

■ 警察官による緊急の対応を要しない通報状況

一方、「警察官による緊急の対応を要しない通報」は 1,524,542 件で全体の 18.4%を占め、前年同期比で△79,179 件(△4.9%)であった。内訳は、「各種照会」が 705,830 件(構成率 8.5%)、「要望苦情相談」が 667,279 件(同 8.0%)、「虚報・誤報」が 151,433 件(同 1.8%)であった。

以下、緊急の対応を要しない通報事例を紹介する。

● 各種照会

「店舗の場所、営業時間等を教えてほしい」「免許更新の方法、運転経歴証明書の取り方を教えてほしい」「救急車は何番に電話すればよいのか教えてほしい」

● 要望・苦情・相談

「駐車場の営業が終了し、停めていた車が出せない」「子供が言うことを聞かない、警察官が来て代わりに叱ってほしい」「信号機、道路標識等を設置してもらいたい」

- 虚報

「外国人に現金を強奪された」との通報に基づき臨場したところ、通報者が会社の金を使い込んでしまったことから、強盗にあったとの虚偽の通報をしたことが判明した。

「駅前で5、6人が喧嘩し、一人が血だらけで立っている」との通報に基づき臨場し捜査したところ、少年が警察官をからかうために虚偽の通報をしたことが判明した。

- 誤報

「自転車が盗まれた」との通報に基づき臨場したところ、駐輪場所の間違いで、誤報と判明した。

「自宅の駐車場から車が盗まれた」との通報に基づき臨場したところ、家族が車両を運転していることが確認でき、誤報と判明した。

- その他

「携帯電話を機種変更したので、試しに110番をかけてみた」「酔っ払って帰れないので、パトカーで送ってもらいたい」「駅にタクシーがないし、お金もないので送ってもらいたい」「家の中に蛾、蛇、ゴキブリがいる」「今日は何日ですか、今は何時ですか」

- 通信指令業務に対する偽計業務妨害等の検挙事例

- 公衆電話から「店に爆弾を仕掛けた」との虚偽の110番通報をし、警察官を現場に向かわせ、その業務を妨害した。
- 別れた夫と復縁を希望する女が男の住む自宅に行く口実を作るために、「元夫に大麻をやらないかと声を掛けられた」旨の虚偽の110番通報をした。
- 「駐車中に当て逃げ被害に遭った」との110番通報を受け、防犯カメラを確認したところ当て逃げの事実はなく、会社の車を自ら損壊させ、責任を免れるため虚偽の110番通報をした。

以 上